

投稿規定	362
編集後記	364

《本号の表紙絵》

埼玉県立特別衛生地区保健館（農村保健館）の写真（ポストカード）

（国立保健医療科学院 所蔵）

関東大震災の直後、米国ロックフェラー財団から災害地復興援助の一環として、東京帝国大学図書館、慶応大学寄生虫学教室とともに、公衆衛生技術者教育機関を寄付する旨の申し出があった。その後、1930（昭和5）年に日本側から再要請、1937（昭和12）年同財団より東京帝国大学伝染病研究所（後の医科学研究所）の敷地内に「公衆衛生院」が、東京市京橋区明石町に「都市保健館」、埼玉県所沢町に「農村保健館」が建設され、それぞれ日本政府、東京市、埼玉県に寄付された。両保健館に対して、当初3年間はロックフェラー財団より事業費に補助があった。

農村保健館は1938（昭和13）年1月10日仮事務所において事業を開始した。4町27村の組合病院の隣接地に建設されたが、医師会の反対はまったくなかったという。京橋の都市保健館は鉄骨コンクリート造りであったが、こちらは農村に相応じて木造であった。埼玉県所沢外6か村を特別衛生地区と定めて、計8名の保健婦（職名は保健看護婦）が保健婦活動を行った。

公衆衛生の教育機関に実習地を設けることは国内でも初めてであったのみならず、世界各国に先駆けたものでもあった。この事情をロックフェラー財団が世界に報じ、各国でも実習地が設けられるようになった。

（以上、「保健所五十年史」（1988年、日本公衆衛生協会）野辺地慶三の記述より）

この農村保健館は1941（昭和16）年に所沢保健所と改称し、1964（昭和39）年にけやき台に新築された庁舎に移転、2010（平成22）年に狭山保健所に統合されるまで業務を行っていた。

当時の建物は現在残っていないが、くすのき台の長者久保公園に「農村保健館跡」の碑がある。実際の跡地は、この碑から南東方向に約173 m行った所で、武蔵野銀行所沢駅前支店前の歩道に金属の標識で「農村保健館跡」が立っているという。

（https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/history/history_hassyo.html）

（逢見 憲一）